

26年度予算の主な内容

《新》は新規事業

1 心豊かな人と文化をはぐくむまち

○《新》戸井西部総合センター整備事業費	1,890万円
○函館市公民館整備事業費	2億3,000万円
○《新》重要文化財旧函館区公会堂保存修理事業費	2,190万円
○史跡垣ノ島遺跡整備事業費(南茅部)	1,200万円
○函館アリーナ整備事業費	52億5,703万8千円
○函館フットボールパーク整備事業費	6億2,620万円
○スポーツ大会・合宿誘致推進事業費(誘致活動の強化)	390万円
○スポーツ合宿誘致補助金	150万円
○地域放課後児童健全育成事業費(47カ所)	2億5,151万5千円
○《新》学童保育施設整備事業費	2,566万円
○私立幼稚園就園奨励費(負担軽減の拡大)	3億5,620万2千円
○学力向上支援事業費(アフタースクールの拡充)	226万2千円
○学習活動推進費	2,924万6千円
○《新》ICT活用教育研究事業費	354万3千円
○中学生海外派遣事業関係経費(高陽市)	269万8千円
○義務教育施設整備費(校舎等耐震改修工事14校ほか)	9億5,209万8千円
○《新》学校給食基本方針推進事業費(「和食の日」を設定)	500万円
○《新》第二太陽の子幼稚園園舎改築事業費補助金	1,000万円
○特別支援教育支援員関係経費(50名)	4,222万5千円
○《新》青函ツインシティ提携25周年記念事業実行委員会負担金	200万円
○函館圏公立大学広域連合負担金	19億4,708万4千円
○国際水産・海洋都市構想推進費(国際水産・海洋総合研究センター管理運営経費ほか)	1億5,865万5千円
○一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構補助金	1,870万円

2 共に支えあい健やかに暮らせるまち

○《新》福祉コミュニティエリア整備基本構想策定経費	1,200万円
○高齢者・障がい者にやさしい道づくり事業費	2,000万円
○子ども・子育て会議関係経費	75万円
○(仮称)子ども条例検討関係経費	64万円
○《新》子ども・子育て支援新制度移行準備経費	3,420万円
○子育て支援隊関係経費(H26.10~実施)	120万円
○子育て支援推進事業費	7,243万7千円
○子ども医療助成費	6億2,607万円
○《新》保育士等処遇改善臨時特例事業費	7,853万1千円
○《新》公立保育園民営化推進費	650万円
○《新》家族介護支援員関係経費	73万2千円
○点訳奉仕員等養成事業(《新》手話通訳者・要約筆記者養成事業)	204万9千円
○《新》第52回北海道障害者スポーツ大会開催経費	300万円
○《新》臨時福祉給付金	10億6,647万7千円
○《新》子育て世帯臨時特例給付金	2億7,699万7千円
○《新》働く世代の女性支援のためのがん検診推進事業費	4,087万8千円
○《新》道南ドクターヘリ運航経費	3,853万6千円
○妊婦健康診査費(受診者負担の軽減)	1億2,658万2千円
○《新》特定感染症検査等事業(風しん抗体検査)	350万7千円

3 快適で安らぎのある住み良いまち

○《新》市街地再開発ビル公共施設予定床取得費	6億1,800万円
○《新》市街地再開発ビル公共施設整備事業費	1,260万円
○《新》市民交流プラザ整備基本計画作成費	460万円
○《新》市道ときわ通歩道整備事業費	3,750万円
○大門キッズスタジアム運営経費	3,980万円
○電車停留場整備事業費(1カ所:五稜郭公園前)	9,500万円
○中心市街地出店促進事業費	690万円
○中心市街地活性化推進費(計画期間H25~H29)	412万2千円
○函館駅前若松地区市街地再開発事業費	2億6,120万円
○《新》函館本町地区優良建築物等整備事業費	2億2,860万円
○ヤングファミリー住まいりんぐ支援補助金	828万円
○市営住宅耐震改修事業費(1棟)	8,835万円

ルの建設を支援するほか、駅前市有地では、民間事業者による集客性の高い施設展開を図ります。

また、市道ときわ通の歩道の高質化を図り、快適で魅力的な歩行空間を創出します。

公共交通では、生活交通ネットワーク計画の策定により、バス路線再編等の検討を進めるとともに、デザイン性に優れた市電停留場の整備を行うなど、利用者の利便性や町並み景観の向上に努めます。

上水道では、小水力発電設備の整備を進めるほか、北海道から、集水区域について、保全地域の指定を受け、水資源の保全に努めます。

エネルギーでは、住宅用太陽光発電システムの設置支援を継続実施するとともに、海洋再生可能エネルギー利用の可能性について検討を進めます。

防災対策では、津波避難路や防災行政無線の整備、避難行動要支援者名簿の作成に取り組むほか、自主防災活動を担う人材の育成に努めます。

また、災害時多目的船については、母港としての函館港の活用などについて要望活動を行います。

さらに、大規模建築物の耐震化を促進するため費用の支援・融資制度を創設し、民間事業者の負担軽減を図るとともに対象施設である市民会館の耐震診断を実施します。

4 環境と共生する美しいまち

環境保全・廃棄物対策では、新たに小型家電リサイクルに取り組みほか、今後の一般廃棄物の処理に関する施策を推進するため、新たな一般廃棄物処理基本計画を策定します。

魅力ある景観の形成では中心市街地のトータルデザインも踏まえた駅前通などの整備検討を進め、電車架線の改良

5 活力にあふれにぎわいのあるまち

観光・コンベンションでは、新たな観光基本計画に基づき、各種施策を推進します。

北海道新幹線開業に向けた集中キャンペーンや観光プロモーションの実施、函館ロゴマーク活用の促進など、函館ブランドの確立と効果的な発信に努め、観光客誘致に向けた取り組みを強化します。

また、イベントでは、五稜郭築造150年記念事業のほか、冬のイベントの検討に取り組みなど、さらなる充実を図ります。

さらに、「青函圏観光都市会議」での都市間連携による広域観光エリアの形成など、交流人口の増加をめざします。

農業では、収益性の高い薬用植物の試験栽培研究や酒造好適米の栽培の奨励に取り組みます。

水産業では、漁港や漁場等生産基盤の拡充やウニ・アワビ等の資源増大対策に取り組みます。

中小企業の振興では、青函

「活気に満ちて、だれもが 幸せに暮らせるまち・函館」 をめざして

26年度市政執行方針



市長 工藤 壽樹

はじめに

私は、長らく停滞を続けている函館の「明日を変える」ため、経済の再生、財政の再建を最優先の課題とし、中心市街地活性化基本計画に基づいた事業や交流人口を拡大する各般の施策に鋭意取り組んでまいりました。

経済再生と財政再建に向けた取り組みを「ホップ」、「ステップ」、「ジャンプ」に例え、本年は、まちづくりをさらに加速させる「ジャンプの年」、「発展の年」となるよう、全力で市政運営に臨んでまいります。

市政に臨む基本姿勢と 重点目標

2年後に迫った北海道新幹線の開業をさらなる地域の振

- 興発展の契機とすべく、各般の施策に取り組み、様々な分野において他地域との連携・交流の拡大を図るなど、道南・青函圏も含めた圏域全体での経済波及効果を高めてまいります。
- また、大間原子力発電所については、私たちの故郷が、日々の暮らしが失われることがないように、建設凍結に向けた訴訟を提起いたします。
- 私は、市政の推進にあたり
- 函館再生への挑戦
- 新しい魅力と姿が見えるまちづくり
- 過去にとらわれない清新な市政の実現
- 市民と苦楽を共にする市役所づくり
- の4つの考え方を基本とし、さらに重点目標として、
- 函館の経済を再生する
- 函館市の財政を再建する
- 日本一の福祉都市をめざす
- 子どもたちと若者の未来を拓く
- 市民が誇れる美しいまちをつくる
- の5つを掲げ、市民の皆様と

工藤市長は、第1回函館市議会定例会において、26年度の市政執行にあたり、その所信を明らかにしました。
(要約を掲載します)

力をあわせ、函館再生のために戦う市長として「活気に満ちて、だれもが幸せに暮らせるまち・函館」の実現を引き続きめざしてまいりますと考えております。

主要施策の推進

「函館市基本構想」に基づき、次の5項目を基本として取り組んでまいります。

1 心豊かな人と文化をはぐくむまち

生涯学習では、函館市公民館改修工事の実施や「戸井西部総合センター」の実施設計に着手するほか、亀田地区の社会教育施設等の統合・整備について検討し、文化芸術では、重要文化財旧函館区公会堂の耐震診断を実施します。

スポーツ・レクリエーションでは、函館アリーナや函館フットボールパークの整備を進め、各種大会などの誘致拡大をめざします。

都市間交流では、青函ツインシティ提携25周年を記念し、青森・函館両市において、

各種事業を実施します。

学校給食では、「学校給食基本方針」に基づき、地産地消を進め、和食給食の推進などに取り組みます。

また、中学校の再編統合方針による校舎の新築や改修の設計に着手するほか、校舎等の耐震化では、診断結果を踏まえ引き続き改修を行います。

高等教育の充実では、引き続き医学部の誘致に向けた情報収集に努めます。

「函館国際水産・海洋都市構想」については、6月供用開始の「函館市国際水産・海洋総合研究センター」を構想推進の中核施設として、学術研究拠点都市の形成をめざした取り組みを進めます。

2 共に支えあい健やかに暮らせるまち

地域福祉では、日吉4丁目団地跡地における「福祉コミュニティエリア」の整備基本構想を策定します。

児童福祉では、「子育て支援隊」を創設するほか、尾札部・白尻保育園の統合民営化への取り組みを進めます。

また、「子ども子育て会議」からの意見を踏まえ、支援事業計画を策定するとともに、「(仮称)子ども条例」の制定に向けた検討を進めます。

高齢者福祉では、高齢者福祉や介護事業における次期計画を策定するほか、市民後見

人の養成に努めます。

介護保険事業では、在宅介護している家族の負担軽減のため、「家族介護支援員」による支援活動を展開し、介護者であることを周知する介護マーカーの作成配付や、高齢者による「介護支援ボランティアポイント事業」の開始など、多様な介護サービスの推進と円滑な運営に努めます。

障がい者福祉では、新たな計画を策定するほか、手話通訳者養成講座の受講者等を支援します。

低所得者支援対策では、就労等意欲喚起プログラム事業を実施し、自立支援に努めるほか、生活保護の適正な運営を図るため、不正受給ホットラインを設置します。

また、消費税増税に伴い、国が創設した臨時福祉給付金などの支給に向けた取り組みを進めます。

健康づくりでは、妊婦健康診査の受診者負担の軽減を図り、医療環境では、道南圏にドクターヘリを導入し、救急医療体制の充実を図ります。

3 快適で安らぎのある住み良いまち

中心市街地の活性化に向け、函館駅前地区では「ほこだておもしろ館」と「子育て世代活動支援プラザ」、本町地区では「市民交流プラザ」の整備に取り組み、各複合ビ

○《新》市営住宅耐震診断事業費(5棟)	1,731万円
○住宅リフォーム補助金(耐震化・バリアフリー化・断熱化)	1,500万円
○住宅用太陽光発電システム設置費補助金	1,350万円
○海洋再生可能エネルギー利用開発推進費	300万円
○道路橋梁新設改良費	18億615万円
○《新》地域公共交通調査事業費	400万円
○交通事業建設改良費	4億1,008万円
○上水道整備事業費	17億8,360万6千円
○河川改修事業費	3億6,490万円
○排水路整備事業費	1億1,720万円
○防災対策経費(津波防災対策経費、防災行政無線整備費、《新》避難行動要支援者名簿システム経費ほか)	3億2,167万7千円
○《新》特定建築物耐震化支援事業費	9億4,319万3千円
○《新》市民会館耐震診断調査費	1,430万円
○東消防署日ノ浜出張所庁舎整備事業費	5億6,910万円
○街路灯設置費補助金	7,565万7千円
○街路灯電灯料補助金	8,719万3千円

4 環境と共生する美しいまち

○《新》新廃棄物処理システム構築関係経費	272万8千円
○《新》小型家電リサイクル実施経費	50万円
○下水道整備事業費	10億3,998万8千円
○生活排水対策費	2,448万5千円
○駅前環境美化推進事業費	1,000万円
○公園等整備費	2億2,640万円

5 活力にあふれにぎわいのあるまち

○《新》函館～大阪線利用促進プロモーション経費	200万円
○《新》O・I・T・NIA旅行関係会社招へい事業実施経費	297万4千円
○《新》五稜郭築造150年祭開催補助金	600万円
○薬用植物試験栽培研究費	230万円
○農作物集出荷貯蔵施設整備事業費補助金	1,166万6千円
○コントラクター組織創出・推進支援事業費補助金	338万3千円
○市有林整備費	3,750万2千円
○沿岸漁業構造改善対策事業費補助金	8,540万4千円
○中小企業金融対策費(《新》青函地域活性化資金の創設、新規融資枠4億円)	70億8,336万5千円
○函館市アンテナショップ運営経費	268万2千円
○(仮称)函館観光物産館開設検討調査費	30万円
○函館スイーツ販路拡大推進事業費	116万1千円
○函館うまいものまつり開催負担金	150万円
○元気いっぱい商店街等支援交付金	3,730万円
○海外展示商談会参加経費	297万6千円
○《新》北海道国際輸送プラットホーム推進経費	40万円
○《新》タイ物産展参加経費	200万円
○《新》創業支援事業負担金	1,000万円
○デザイン産業推進事業費	480万円
○地域資源ビジネスマッチング事業費	230万円
○《新》ものづくり広域連携推進事業費	180万円
○ジョブカフェ・ジョブサロン函館運営経費	493万3千円
○北海道新幹線開業対策費(《新》開業記念イベント開催事業費ほか)	3,351万3千円
○街路整備事業費	8億3,440万円
○《新》港湾計画変更等経費	6,000万円
○港湾施設整備費	15億2,000万円
○函館港利用促進関係経費	2,226万8千円
○函館空港整備事業費負担金(用地造成(耐震対策)、誘導路改良など)	9,792万3千円

6 主要施策の推進のために

○市民協働モデル事業補助金	135万7千円
○町会交付金	6,967万7千円
○町会会館建設費補助金(8館)	1,322万5千円
○地域パワーアップ事業関係経費(概法華)	50万円
○地方選挙準備費(北海道知事・道議、函館市長・市議)	8,235万9千円

両地域の特産品を活用した商品開発などを促進する「青函地域活性化資金」を創設するなど、経営基盤の強化や生産性の向上を支援します。

工業では、広域的な企業連携に取り組みマッチング事業を新たに展開し、本市の「ものづくり」技術のアピールに努め、地元製造業のビジネスネットワークの拡大を促進します。

商業では、函館スイーツの販路拡大を支援するとともに、海外で開催される食品展示商談会への参加企業を支援し、地域の特産品を国内外に広く発信します。

新産業の創出では、市と函

館地域産業振興財団の連携を強化し、創業予定者への支援の充実を図ります。

北海道新幹線については、その開業効果を地域の振興・発展に繋げるため、カウンタダウンイベントなどを開催するほか、二次交通の充実や啓発活動など、各関係機関と連携しながら様々な取り組みを進めます。

また、第三セクター鉄道会社の設立に向け、安全性の確保などを国やJR北海道に要請するとともに、新函館開業後の現駅との鉄道アクセスについても利便性等に優れた列車運行が図られるよう、関係機関と協議を進めます。

高速道路では、北海道縦貫自動車道や新年度に一部供用開始予定の新外環状道路などの早期整備を促進します。

函館港では、新年度に一部供用される弁天地区の岸壁や北ふ頭地区のフェリーふ頭の整備等を引き続き進めます。また、大型旅客船の誘致など、ポートセールの充実を図るほか、若松地区旅客船ふ頭の整備に向けた港湾計画の変更や国への要望活動に取り組みます。

6 主要施策の推進のために

主要施策推進のため、次の4点を重要な視点として取り組みます。

1 点目の「市民参画によるまちづくり」では、NPO法人への寄附金が税額控除の対象となる条例の制定に向け、取り組みを進めるほか、市のHPを一新するなど、広報広聴の充実を図ります。

2 点目の「市民主体のまちづくり」では、町会館等の改修や町会組織が主体的に地域力の向上をめざす、概法華地区の「地域パワーアップ事業」を支援します。

3 点目の「時代の変化に即した行財政運営の確立」では、「行財政改革プラン」を推進し、聖域のない行財政改革を強力に推進します。

4 点目の「広域行政の推進」

では、定住自立圏構想に基づく「中心市」として道南全体の振興発展をめざします。

むすび

私は、本年を函館の停滞から発展への転換期と位置付け、「市民の生命と財産を守り、函館の未来を拓く」市長としての責務と使命を強く認識しながら、まちづくりを加速してまいります。

北海道新幹線開業の年が、函館にとってさらなる振興発展に向けた「飛躍の年」となるよう、市民の皆様と力をあわせて、全力で市政運営に取り組んでまいります。